

(企業調査票)

病気の治療と仕事の両立に関する実態調査

＜調査へのご協力のお願＞

- この調査は、厚生労働省所管の調査研究機関である 独立行政法人 労働政策研究・研修機構（※）が、厚生労働省、労働基準局安全衛生部及び、職業安定局の研究要請を受けて実施するものです。現在、政府は、働き方改革の中で、治療と仕事の両立に係る支援の強化に取り組んでいきます。平成29年3月28日に取りまとめられた働き方改革実行計画では、病気の治療と仕事の両立について、会社の意識改革と受入れ体制の整備などの提言もなされました。これらを踏まえ、現状を踏まえた政策を検討していくため、病気が、がん、脳血管疾患、心疾患、糖尿病、肝炎、難病等）の治療と仕事の両立に関する実態調査を行う必要があります。結果は、今後の労働政策立案する上で重要な資料として、有効に活用して参ります。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、
(※http://www.jil.go.jp/)
- 調査票は、信用調査機関が所有するデータベースに登録されている全国の企業から、無作為に抽出・配布されています。ご回答は統計的に処理され、貴社の企業名はもとより、個別の内訳が特定されることは一切、ございませんので、ありのままをご記入ください。
- 設問へのご回答は、「1つに○」「該当すべてに○」「数値を記入」など、回答方法の指定に沿って、ご記入ください。また、「その他」を選択された場合は、具体的な内容を（ ）内にご記入ください。
- この調査は、企業を単位として行っています。そのため、本社だけでなく支店、出張所、営業所、工場、店舗など、すべての事業所を含めた全体の状況についてご回答ください（なお、貴社がメインの事業活動を行っていない持株会社である場合は、連結決算範囲のグループ企業を含めてご記入ください）。
- 特に断りのない場合 **2017年9月末日現在の状況**をご記入ください。ご記入が終了しましたら、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、**2017年11月8日（水）まで**に、郵便ポストにご投函ください。
- 調査票の発送、回収、入力、実査機関である株式会社アストジェイトに委託しています。ご不明点等はこちらの内容に応じ、下記担当までお問い合わせ申し上げます（平日9：00～17：30）。

【調査票の記入方法・締め切りなど実態について】

株式会社アストジェイト

社会環境調査部 担当：●●●●

【調査の趣旨・内容について】

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

調査部 担当：●●●●

I 企業の概要についてお伺いします。

問1. 貴社について教えてください（いずれの項目も1つに○）。

| | | | | | | |
|------------------------|------------------|--------------------------|--------------|-------------|-------|---------|
| a.主たる業種 (主たる1つにのみ○) | 1. 鉱業、採石業、砂利採取業 | 9. 不動産業、物品賃貸業 | | | | |
| | 2. 建設業 | 10. 学術研究、専門・技術サービス業 | | | | |
| | 3. 製造業 | 11. 宿泊業、飲食サービス業 | | | | |
| | 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 12. 生活関連サービス業、娯楽業 | | | | |
| | 5. 情報通信業 | 13. 教育、学習支援業 | | | | |
| | 6. 運輸業、郵便業 | 14. 医療、福祉 | | | | |
| | 7. 卸売業、小売業 | 15. 複合サービス事業（郵便局、協同組合など） | | | | |
| | 8. 金融業、保険業 | 16. サービス業（他に分類されないもの） | | | | |
| | 9. 10人未満 | 4. 50～99人 | | | | |
| b.正社員1規模 | 5. 100～299人 | | | | | |
| | 6. 300～999人 | | | | | |
| c.正社員40代以上比率 | 1. 1割 | 2. 2割 | 3. 3割 | 4. 4割 | 5. 5割 | 6. 6割以上 |
| d.正社員の女性比率 | 1. 1割 | 2. 2割 | 3. 3割 | 4. 4割 | 5. 5割 | 6. 6割以上 |
| e.創業 | 現在から | 1. 10年以内 | 2. 10年超50年以内 | 3. 50年超（経過） | | |

1 正社員とは、貴社に直接雇用されている無期労働契約の、いわゆる正規従業員を指すものとします（非正社員はそれ以外の従業員（パート、契約、嘱託等）を指すものとします（派遣・請負労働者は含まないでください））。

II. 産業保健スタッフ、健康診断等についてお伺いします。

(産業保健スタッフ体制や相談体制)

問2：貴社では、産業保健スタッフ（産業医、保健師、看護師など）がいますか。(該当すべてに○)

1. 専属の産業医がいる
2. 嘱託の産業医がいる
3. 保健師がいる
4. 看護師がいる
5. その他（ ）
6. 産業保健スタッフはいない

問4へ

(問2で選択肢1～5を選択した企業（産業保険スタッフがいる企業）は問3にお答えください。)

問3：産業保健スタッフは、社員に対して以下のサポートを行っていますか。(該当すべてに○)

1. 社員からの相談受付
2. 長時間労働者等の健康指導
3. 健康診断等の結果を踏まえたフォローアップ
4. 休職や復職にあたっての面談
5. 休職者に対する定期的な面談やフォロー
6. 医療機関（主治医等）との連絡・情報交換
7. 職場環境整備に関する人事部門・上司への助言
8. その他（ ）
9. とくにサポートは行っていない

問4：私傷病に罹患した社員から、治療と仕事との両立に関する相談を受けていますか。(該当すべてに○)

1. 社外の相談専用窓口で受け付けている
2. 社内の相談専用窓口で受け付けている
3. 人事・労務担当者が受け付けている
4. 特設、相談は受け付けていない

(健康診断)

問5：過去1年間に貴社の社員に対して以下の項目の健康診断を実施しましたか（貴社が所属する健康保険組合が行っている場合を含む）。(該当すべてに○)

1. 定期健康診断
2. がん検診
3. 人間ドック
4. 肝炎ウイルス検査
5. 以上のいずれもしていない

問6：定期健康診断等の後に、異常の所見が出ている社員に対してフォローアップ（治療開始の促しや治療状況の把握）はしていますか。(もともと近いと思われるもの1つに○)

1. 会社人事部門が主体となった産業保健スタッフ等と連携しフォローアップしている
2. 産業保健スタッフ等が主体となってフォローアップしている
3. 健康保険組合などの社外の組織を主体としてフォローアップしている
4. 特設にフォローアップはしていない

Ⅲ. 傷病に関する休暇・休職についてお伺いします。

(長期の病氣治療のための病氣休職制度)

※ここでの「病氣休職制度」とは、私傷病により連続して1ヵ月以上出勤できないうち、一定の期間は雇用関係が継続されており、解雇や退職にならない制度のことをいいます。(呼称の別は問いません)。以下では、就業規則などに規定がある場合はその規定により、また、規定がなくとも、慣行的に行われていれば、その通常の場合についてご回答ください。

問7：貴社には、通常の年次有給休暇以外で、連続して1ヵ月以上、従業員が私傷病時に利用できる休暇・休業する制度(慣行を含む、労働災害で患った傷病による休職・休業制度は除きます。)がありますか。(以下、「病氣休職制度」と表記) (○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

(休職期間中の給与)

問8：病氣休職期間中に月例賃金(「傷病手当金」や「傷病手当付加金」等は除く(注2))は支給されますか。(○は1つ)

- 1. 支給されない
- 2. 支給される

(注2)「傷病手当金」とは、健康保険法により、4日以降、最長18ヵ月(1年6ヵ月)にわたる約3分の2の給与が補償される制度です。「傷病手当付加金」とは、貴社の健康保険が健康保険組合である場合に支給される可能性のあるものです(未済からの手当金を含む)。支給割合は、「傷病手当金」とは別に1割～2割5分程度です。

問9：貴社では、(1)傷病手当金の受給給装を行っていますか。また、(2)傷病手当付加金がありますか(それぞれ○は1つ)

- (1) 傷病手当金の受給給装
 - 1. 受給給装している (または、貴社が支給の手続きを代理している)
 - 2. 受給給装していない
 - 3. 前例がないのでわからない

(2) 傷病手当付加金の有無

- 1. ある
- 2. ない
- 3. 前例がないのでわからない

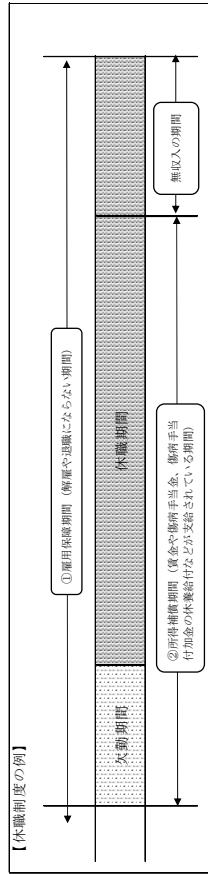
(休職期間の上限)

問10：貴社における休職期間(欠勤期間を含む)について、①雇用保障期間(解雇や退職にならない期間)と②所得補償期間(賃金や傷病手当金、傷病手当付加金の休業給付などが支給されている期間)に分けてお尋ねします(以下の休職制度の例を参照)。

貴社の①雇用保障期間の上限と②所得補償期間の上限はどのくらいですか(勤続年数などで違う場合は、上限が長い期間をお答えください。欠勤期間を経てから休職期間となる場合は、両者を合計した上限を選択してください。就業規則等に規定されていない場合は、通常のケースをお書きください)。(各項目で○は1つ)

| | ①雇用保障期間 | ②所得補償期間 |
|----------------|---------|---------|
| 1ヵ月以下 | 1 | 1 |
| 1ヵ月超から3ヵ月まで | 2 | 2 |
| 3ヵ月超から6ヵ月まで | 3 | 3 |
| 6ヵ月超から1年まで | 4 | 4 |
| 1年超から1年6ヵ月まで | 5 | 5 |
| 1年6ヵ月超から2年まで | 6 | 6 |
| 2年超から2年6ヵ月まで | 7 | 7 |
| 2年6ヵ月超から3年まで | 8 | 8 |
| 3年超(具体的に 年 ヵ月) | 9 | 9 |
| 上限なし | 10 | 10 |

【休職制度の例】



(失効年休積立制度)

問11：貴社には、失効した年次有給休暇を積み立て、病気で長期療養する場合に使える失効年休積立制度がありますか。(○は1つ) 問7～10の病氣休職制度(欠勤期間含む)及び後述の問12の傷病休暇制度(特別休暇)とは別の制度です。

- 1. ある
- 2. ない

付問：総積立日数に上限はありますか。(○は1つ)

- 1. 上限がない
- 2. 上限はある → 付問-1：総積立日数の上限は何日ですか。(○は1つ)
 - 1. 10日まで
 - 2. 11～20日まで
 - 3. 21～30日まで
 - 4. 31～40日まで
 - 5. 41～50日まで
 - 6. 51日以上(具体的に： 日)

(傷病休暇制度 (特別休暇))

休暇には、理由・目的を問わず自由に利用できる年次有給休暇と、病气や慶弔行事など特定の理由が生じた場合に認められる特別休暇があります。以下の問 12 では、年次有給休暇以外で、病気の治療目的の傷病休暇制度 (特別休暇) についてお答えください。問 7～10 の病气休職制度 (欠勤期間含む)、問 11 の失効年次有給休暇制度とは別の制度です。

問 12：貴社には、年次有給休暇以外で利用できる、傷病休暇制度 (特別休暇) がありますか。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

付問 1：傷病休暇制度は1日単位で取れますか。(○は1つ)

- 1. 1日単位で取れる
- 2. 取れない (一定期間以上でない) と取得できない

付問 2：傷病休暇制度は、有給ですか。(○は1つ)

- 1. 有給
- 2. 一部有給
- 3. 無給

付問 3：傷病休暇の時間単位取得制度はありますか。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

付問 4：傷病休暇を取得する場合、診断書等は必要ですか。(○は1つ)

- 1. 取得日数にかかわらず診断書が必要
- 2. 取得日数によって診断書が必要
- 3. とくに診断書等は必要でない

IV. 治療と仕事の両立支援制度についてお伺いします

問 13：(1)貴社には、柔軟な働き方を支援するための制度として、以下の制度がありますか。(各項目で○は1つ)

(2)制度がある場合、私傷病の治療や療養を目的に利用することは可能ですか。(各項目で○は1つ)

| | (1)制度の有無 | | (2)制度がある場合、私傷病の治療や療養を目的に利用可否 | |
|------------------|----------|----|------------------------------|--------|
| | ない | ある | 利用できる | 利用できない |
| 時差出勤制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| 所定内労働時間を短縮する制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| 時間単位の休暇制度・半日休暇制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| フレックスタイム制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| 裁量労働制 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| 在宅勤務制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| 退職者の再雇用制度 | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |
| その他 () | 1 | 2 | ⇒ 1 | ⇒ 2 |

(疾患罹患患者への配慮事項)

問 14：貴社では私傷病等の疾患罹患患者が出た場合に、次のような仕事内容、業務量、勤務時間などの働き方を見直すことがありますか。(該当すべてに○)

- 1. 所定内労働時間の短縮
- 2. 残業・休日労働の制限・禁止
- 3. 通院治療のための休暇取得の促進
- 4. 配置を変更した (所属部署の変更等)
- 5. 仕事内容を変更した (軽微な作業に就ける等)
- 6. 業務量の削減
- 7. 役職を解いた
- 8. 就業形態を変更した (正社員からパート等に転換)
- 9. 疾患治療についての職場の理解の促進
- 10. その他 ()
- 11. 働き方の変更はしない
- 12. そもそも疾患罹患患者の前例がない

(試し出勤制度の有無)

問 15：休職者の復職に当たって、短時間勤務など慣らし運転的に復職を始める「試し出勤制度 (リハビリ 出社等、制度の名称は問いません)」がありますか (慣行を含む)。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

(復職支援プログラムの有無)

問 16：貴社には、「復職支援プログラム」(休業から職場復帰までの流れ (制度や関係者の役割など) をあらかじめ明確にしたもの) がありますか。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

(健康経営)

健康経営とは、「従業員の健康増進を重視し、健康管理を経営課題として捉え、その実践を図ることによって従業員の健康の維持・増進と会社の生産性向上を目指す経営手法」と定義されています。

問 17：貴社は健康経営について取り組んでいますか。(○は1つ)

- 1. すでに取り組んでいる
- 2. 現在、検討中
- 3. 取り組んでいない

問 18：貴社では、従業員の健康保持・増進に係わる以下の事項を実施していますか。(該当すべてに○)

- 1. 従業員の健康保持・増進の理念・方針の明文化
- 2. 従業員の健康保持・増進に関する取り組みを社外に情報開示 (CSR 報告書等)
- 3. 従業員の健康保持・増進に関して、経営レベルの会議で議題にしている
- 4. 従業員の健康保持・増進に関する独立した専任部署を設置
- 5. 経営トップ層等に CHO (健康管理最高責任者) を設置
- 6. 従業員の健康保持・増進に係わる施策の実施
- 7. 従業員の健康保持・増進の担当者に対して教育・研修を実施
- 8. 管理職に対して、従業員の健康保持・推進施策についての教育・研修を実施
- 9. 健康保持・増進に係わる施策の効果検証の実施
- 10. その他 ()
- 11. 以上のいずれも実施していない

問 19：貴社の経営トップ (役員等) は従業員の健康保持・増進に積極的に関与していますか。(○は1つ)

- 1. 非常に積極的
- 2. やや積極的
- 3. やや消極的
- 4. 全く消極的

(病氣に対する教育・研修制度)
 問 20：過去3年間に私傷病等に関する教育・研修(病気の予防や職場での対処方法等の教育・研修)を実施したことがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない
- 「1. ある」とする企業にお聞きします。
 付問 1：過去3年間に下記の疾患を対象とした教育・研修を実施しましたか。(該当すべてに○)
- 1. メンタルヘルズ
 - 5. 肝炎
 - 2. がん
 - 6. 糖尿病
 - 3. 心疾患
 - 7. 難病
 - 4. 脳血管疾患
 - 8. その他()

付問 2：教育・研修の参加対象は何ですか。(該当すべてに○)

- 1. 管理職
- 2. 一般社員
- 3. 非正社員
- 4. その他()

(企業と健康保険組合との連携)
 平成 27 年度から厚生労働省の下で「データヘルズ計画」が始まり、健康保険組合の取組に対する企業の関与(企業・健保組合の連携；コロナヘルズ)が求められています。データヘルズ計画とは、健康保険組合等が保有するレセプト(診療報酬明細書)や特定健診・特定保健指導などの情報を活用し、加入者の健康づくりにや疾病予防、重症化予防につなげるものです。

貴社の健康保険組合等保険者との連携状況についてお聞きします。
 問 21：貴社における保険者の種別は何ですか。(該当すべてに○)

- 1. 単一組合(貴社グループ単独で設立)
- 2. 総合組合(同業種の複数の企業で共同設立)
- 3. 協会けんぽ(全国健康保険協会)
- 4. 国民健康保険
- 5. 共済組合

問 22：従業員の健康保持・増進の取り組みを推進するために、健康組合等の保険者が保有する自社の従業員の健康状態に係るデータを活用するなど、健康組合等の保険者と連携することがありますか。(○は1つ)

- 1. 連携することがある
- 2. 連携したことはない

(長時間労働の抑制)
 問 23：貴社では、一定の基準を超えた長時間労働者に対してどのような対応策を実施していますか。(該当すべてに○)

- 1. 本人に対する産業医の面接指導
- 2. 人事・労務担当者と本人の面談
- 3. 管理職に対する産業医からの面談・指導
- 4. 管理職に対する人事・労務からの面談・指導
- 5. 本人への時間外労働の制限
- 6. 休日取得強制・出社制限
- 7. その他()
- 8. とくに何もしていない

V. がんや難病の治療と仕事の両立の状況についてお伺いします。

以下の問 24 では、がん、脳血管疾患、心疾患、肝炎(B 型肝炎や C 型肝炎等の肝炎)、糖尿病、難病——の疾患を罹患された方への雇用管理の状況について、お聞きします。
 ※本調査の「難病」とは、障害者総合支援法の対象疾病にあたるものを指します。難病の疾患名については、依頼状の別添「障害者総合支援法の難病性疾患患者対象疾患名」をご参照ください。

問 24：貴社には、過去3年間でみて、以下の疾患を罹患している社員がいますか。(各項目で○は1つ)

| | 疾患者の有無 | |
|----------|--------|----|
| | わからない | いる |
| (a)がん | 1 | 2 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 |
| (f)難病 | 1 | 2 |

以下の設問では、問 24 の疾患(がん、脳血管疾患、心疾患、肝炎、糖尿病、難病)で、過去3年間に疾患者が「いる」とする企業が、疾患ごとにお答えください。罹患者が「いない」(わからない)含む)疾病は空欄でかまいません。問 24 で、過去3年間に疾患(がん、脳血管疾患、心疾患、肝炎、糖尿病、難病)がいずれも、「いない」(わからない)含む)とする企業は、11 頁の間 25 へ進んで下さい。

付問 1：以下の疾患を罹患した社員の年齢層はどの層ですか。(各項目で該当するものすべてに○)

| | 疾患に罹患した年齢層(疾患者がいる年齢層に○をつけてください) | | | | |
|----------|---------------------------------|-----|-----|-----|-------|
| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

付問 2：以下の疾患を罹患した社員は、休職する者が多いですか、それとも休職することなく通院治療をする者が多いですか。(各項目で○は1つ)

| | 休職治療の割合 | | | |
|----------|-------------------|---------|----|---------|
| | ほとんどが休職することなく通院治療 | 2～3割が休職 | 半々 | 6～7割が休職 |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(休職者の状況：以下では、過去3年間の休職者の状況についてお聞きします)

付問 3：過去3年間で、以下の疾患を罹患した社員の休職者人数は何人程度ですか。(各項目で○は1つ)

| | 過去3年間の休職者人数 | | | | |
|----------|-------------|------|------|------|--------|
| | 0人 | 1～2人 | 3～4人 | 5～9人 | 10～29人 |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

付問4：以下の疾患を罹患した社員が休職をした場合、復職にあたって、産業医や人事労務担当が主治医と連携（情報交換含む）をとることがありますか。（各項目で○は1つ）

| | 主治医との連携状況 | | | | |
|----------|--------------|---------------|----------------|--------------------|---|
| | 積極的に連携をとっている | たまに連携をとることがある | 連携をとることはほとんどない | 休職者・復職者が少ないためわからない | |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 |

付問5：以下の疾患を罹患した社員が休職をした場合、復職するまでの期間はどのくらいが多いですか。（各項目で○は1つ）

| | 復職するまでの期間 | | | | | 休職者・復職者が少ないためわからない |
|----------|-----------|-------|-------|---------|--------|--------------------|
| | 1カ月程度 | 3カ月程度 | 6カ月程度 | 6か月未満程度 | 1年以上程度 | |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 8 |

付問6：以下の疾患を罹患した社員が休職をした場合、復職にあたって、配慮措置をすることで、仕事内容、業務量、勤務時間などの働き方を見直すことがありますか。（各項目で○は1つ）

| | 復職の際の配慮措置 | | | | | | | | | | |
|----------|------------|---------------|--------------------|----------------------|--------|--------|-----------------------------|-----------------|--------|------------------|--------------------|
| | 所定内労働時間の短縮 | 残業・休日労働の制限・禁止 | 配置を変更した所属部署の作業に就く等 | 仕事内容を変更した（軽微な作業に就く等） | 業務量の削減 | 役職を解いた | 就業形態を変更した（正社員からパート・アルバイト転換） | 疾患の促進についての職場の理解 | その他（ ） | いい働き方の変更はほとんどしない | 休職者・復職者が少ないためわからない |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |

(疾患罹患者の退職状況：以下では、休職の有無にかかわらず、疾患罹患者の退職の状況についてお聞きします) 付問7：以下の疾患を罹患した社員は、過去3年間でみて、何割程度が退職（依頼退職や休職期間満了など）していますか。（ここでの退職には死亡退職や定年退職を除く。各項目でもっとも近いもの1つに○）

| | 3年間の疾患罹患者の退職割合 | | | | |
|----------|--------------------|---------|------------------|---------|----------------|
| | 退職者は1割以下(退職者はほぼゼロ) | 2～3割が退職 | 4～6割が退職(ほぼ半数が退職) | 7～8割が退職 | 9割以上退職(ほぼ全員退職) |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

付問8：過去3年間でみて、以下の疾患を罹患した社員が退職をする場合、どのタイミングで退職することが多いですか。（ここでの退職には死亡退職や定年退職を除く。各項目でもっとも近いもの1つに○）

| | 退職の時期 | | | | | 再発後 | 前例が少なくわからない |
|----------|-------|---------|-------|-----|-----|-----|-------------|
| | 診断確定時 | 休職申請する前 | 休職期間中 | 復職後 | 再発後 | | |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6 |

(疾患罹患者を雇用する上での課題) 付問9：以下の疾患の罹患者を雇用するにあたって、困難に感じていることはありますか。（各項目で該当するに○）

| | 疾患罹患者を雇用するにあたって困難に感じること | | | | | | | | | | その他（ ） |
|----------|-------------------------|------------------|------------------------|------------------|-------------------------|--------------|-----------|----------------|----------|----------------|--------|
| | 治療と仕事を両立するための制度の構築が難しい | 柔軟な労働時間制限の設計が難しい | 治療のための休むをとりやすい体制確保が難しい | 病状・後遺症に対する配慮が難しい | 身体が不自由な場合職場環境整備方法がわからない | 職場の上司・同僚への指導 | 仕事の与え方・配置 | 医師・看護師との連携が難しい | 人員の増加が困難 | 疾患の早期発見・予防が難しい | |
| (a)がん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (b)脳血管疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (c)心疾患 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (d)肝炎 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (e)糖尿病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| (f)難病 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |

(すべての企業がお答えください)
(治療と仕事の両立支援制度の課題)

問 25：貴社にとって、私傷病等の疾患の治療と仕事の両立支援制度の課題は何だと思いますか。(該当すべてに○)

- 1. 治療と仕事を両立するための制度が十分でない
- 2. 休職期間中の給与保障が困難
- 3. 柔軟な労働時間制度の設計が困難
- 4. 治療のための休みをとりやすい体制確保が困難
- 5. 職場の上司・同僚への指導
- 6. 休職者の代替要員・復帰部署の人員の増加が難しい
- 7. 休職から復帰後の仕事の与え方・配置が困難
- 8. 病状・後遺症に対する配慮が難しい
- 9. 身体が不自由な場合の職場環境整備方法がわからない
- 10. 医療機関（主治医）との連携が難しい
- 11. 適した産業医がみつからない・活用方法がわからない
- 12. 再発防止策
- 13. その他 ()

問 26：疾患の罹患者を雇用するにあたり、必要な支援は何ですか。(該当すべてに○)

- 1. 雇入れに対する助成
- 2. 短時間制度の導入に対する助成
- 3. 罹患者が休業取得した場合の代替要員確保に対する助成
- 4. 疾患に対する情報
- 5. その他 ()

VI アンケート結果概要 (無料) の送付等について

F 1：本アンケート調査の調査結果がまとまりましたらその調査概要 (無料) をお送りしたいと存じますが、ご希望の有無をお教えください。

| | |
|--|-----------|
| 1. 希望する ⇒ 下記の送付・連絡先にご記入ください | 2. 希望しない |
| F 2：当機構では、今後、私傷病の治療と仕事の両立支援にかかわる企業の取り組みについてヒアリング調査を予定しております。ご協力いただける場合には下記に○をしてください。(お伺いする場合にはお電話もしくはメールにてご連絡申し上げます) | |
| 1. 協力できる ⇒ 下記の送付・連絡先にご記入ください | 2. 協力できない |

<送付・連絡先>

| | |
|---------|------------------|
| 貴社名 | |
| 所属部門・役職 | |
| お名前 | |
| 所在地 | 〒 |
| 連絡先 | 電話 : e-mail : |

★調査はこれで終わりです。ご回答いただきありがとうございます。★
添付の返信用封筒によりご返送ください。★

(別添) 障害者総合支援法の難治性疾患患者対象疾患名(平成29年4月時点)

| 番号 | 疾病名 | 番号 | 疾病名 |
|----|------------------------------|-----|----------------------------|
| | (ア行) | | |
| 1 | アイカルディ症候群 | 91 | クロンカイト・カナダ症候群 |
| 2 | アイザックス症候群 | 92 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症 |
| 3 | IgA腎症 | 93 | 結節性硬化症 |
| 4 | IgG4関連疾患 | 94 | 結節性多発動脈炎 |
| 5 | 亜急性硬化性全脳炎 | 95 | 血栓性血小板減少性紫斑病 |
| 6 | アジソン病 | 96 | 限局性皮質異形成 |
| 7 | アッシュヤー症候群 | 97 | 原発性局所多汗症 |
| 8 | アトピー性脊髄炎 | 98 | 原発性硬化性胆管炎 |
| 9 | アペール症候群 | 99 | 原発性高脂血症 |
| 10 | アミロイドーシス | 100 | 原発性側索硬化症 |
| 11 | アラジール症候群 | 101 | 原発性胆汁性胆管炎 |
| 12 | 有馬症候群 | 102 | 原発性免疫不全症候群 |
| 13 | アルポート症候群 | 103 | 顕微鏡の大腸炎 |
| 14 | アレキサンダー病 | 104 | 顕微鏡的多発血管炎 |
| 15 | アンジェルマン症候群 | 105 | 高IgD症候群 |
| 16 | アントレー・ピクスラー症候群 | 106 | 好酸球性消化管疾患 |
| 17 | イソ吉草酸血症 | 107 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 |
| 18 | 一次性ネフローゼ症候群 | 108 | 好酸球性副鼻腔炎 |
| 19 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 109 | 抗糸球体基底膜腎炎 |
| 20 | 1p36欠失症候群 | 110 | 後縦靭帯骨化症 |
| 21 | 遺伝性自己炎症疾患 | 111 | 甲状腺ホルモン不応症 |
| 22 | 遺伝性ジストニア | 112 | 拘束型心筋症 |
| 23 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 113 | 高チロシン血症1型 |
| 24 | 遺伝性膝炎 | 114 | 高チロシン血症2型 |
| 25 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 115 | 高チロシン血症3型 |
| 26 | VATER症候群 | 116 | 後天性赤芽球癆 |
| 27 | ウィーバー症候群 | 117 | 広範脊柱管狭窄症 |
| 28 | ウィリアムズ症候群 | 118 | 抗リン脂質抗体症候群 |
| 29 | ウィルソン病 | 119 | コケイン症候群 |
| 30 | ウエスト症候群 | 120 | コステロ症候群 |
| 31 | ウェルナー症候群 | 121 | 骨形成不全症 |
| 32 | ウォルフラム症候群 | 122 | 骨髄形成症候群 |
| 33 | ウルリッヒ病 | 123 | 骨髄線維症 |
| 34 | HTLV-1関連脊髄症 | 124 | ゴナドトロピン分泌亢進症 |
| 35 | ATR-X症候群 | 125 | Spa欠失症候群 |
| 36 | ADH分泌異常症 | 126 | コフィン・シリシス症候群 |
| 37 | エーラス・ダンロス症候群 | 127 | コフィン・ローリー症候群 |
| 38 | エプスタイン症候群 | 128 | 混合性結合組織病 |
| 39 | エプスタイン病 | | (サ行) |
| 40 | エマヌエル症候群 | 129 | 鰓耳腎症候群 |
| 41 | 遠位型ミオパチー | 130 | 再生不良性貧血 |
| 42 | 円錐角膜 | 131 | サイトメガロウイルス角膜炎 |
| 43 | 黄色靭帯骨化症 | 132 | 再発性多発軟骨炎 |
| 44 | 黄斑ジストロフィー | 133 | 左心低形成症候群 |
| 45 | 大田原症候群 | 134 | サルコイドーシス |
| 46 | オクシタル・ホーン症候群 | 135 | 三尖弁閉鎖症 |
| 47 | オスラー病 | 136 | 三頭筋欠損症 |
| | (カ行) | 137 | CFC症候群 |
| 48 | カーニー複合 | 138 | シェーグレン症候群 |
| 49 | 海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん | 139 | 色素性乾皮症 |
| 50 | 潰瘍性大腸炎 | 140 | 自己貪食空胞性ミオパチー |
| 51 | 下垂体前葉機能低下症 | 141 | 自己免疫性肝炎 |
| 52 | 家族性地中海熱 | 142 | 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 |
| 53 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 143 | 自己免疫性溶血性貧血 |
| 54 | カナバン病 | 144 | 四肢形成不全 |
| 55 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 145 | システロール血症 |
| 56 | 歌舞伎症候群 | 146 | シトリン欠損症 |
| 57 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 147 | 紫斑病性腎炎 |
| 58 | カルニチン回路異常症 | 148 | 脂肪萎縮症 |
| 59 | 加齢黄斑変性 | 149 | 若年性肺気腫 |
| 60 | 肝型糖尿病 | 150 | シャルコー・マリー・トゥース病 |
| 61 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 151 | 重症筋無力症 |
| 62 | 環状20番染色体症候群 | 152 | 修正大血管転位症 |
| 63 | 関節リウマチ | 153 | シュワルツ・ヤンベル症候群 |
| 64 | 完全大血管転位症 | 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 |
| 65 | 眼皮皮膚白皮症 | 155 | 神経細胞移動異常症 |
| 66 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 156 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 |
| 67 | ギャロウェイ・モフト症候群 | 157 | 神経線維腫症 |
| 68 | 急性壊死性脳症 | 158 | 神経フェリチン症 |
| 69 | 急性網膜壊死 | 159 | 神経有棘赤血球症 |
| 70 | 球脊髄性筋萎縮症 | 160 | 進行性核上性麻痺 |
| 71 | 急速進行性糸球体腎炎 | 161 | 進行性骨化性線維異形成症 |
| 72 | 強直性脊椎炎 | 162 | 進行性多巣性白質脳症 |
| 73 | 強皮症 | 163 | 進行性白質脳症 |
| 74 | 巨細胞性動脈炎 | 164 | 進行性ミオクローヌステんかん |
| 75 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 165 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 |
| 76 | 巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 166 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 |
| 77 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 167 | スタージ・ウェーバー症候群 |
| 78 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 168 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 |
| 79 | 筋萎縮性側索硬化症 | 169 | スミス・マギニス症候群 |
| 80 | 筋型糖尿病 | 170 | スモン |
| 81 | 筋ジストロフィー | 171 | 脆弱X症候群 |
| 82 | クッシング病 | 172 | 脆弱X症候群関連疾患 |
| 83 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 173 | 正常圧水頭症 |
| 84 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 174 | 成人スチル病 |
| 85 | クルーゾン症候群 | 175 | 成長ホルモン分泌亢進症 |
| 86 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 176 | 脊髄空洞症 |
| 87 | グルタル酸血症1型 | 177 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) |
| 88 | グルタル酸血症2型 | 178 | 脊髄髄膜瘤 |
| 89 | クロー・深瀬症候群 | 179 | 脊髄性筋萎縮症 |
| 90 | クローン病 | 180 | セビアブテリン還元酵素(SR)欠損症 |
| | | 181 | 前眼部形成異常 |

| 番号 | 疾病名 |
|------|-------------------------------|
| 182 | 全身型若年性特発性関節炎 |
| 183 | 全身性エリテマトーデス |
| 184 | 先天異常症候群 |
| 185 | 先天性横膈膜ヘルニア |
| 186 | 先天性核上性球麻痺 |
| 187 | 先天性気管狭窄症 |
| 188 | 先天性魚鱗癬 |
| 189 | 先天性筋無力症候群 |
| 190 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 |
| 191 | 先天性三尖弁狭窄症 |
| 192 | 先天性腎性尿崩症 |
| 193 | 先天性赤血球形成異常性貧血 |
| 194 | 先天性僧帽弁狭窄症 |
| 195 | 先天性大脳白質形成不全症 |
| 196 | 先天性肺静脈狭窄症 |
| 197 | 先天性風疹症候群 |
| 198 | 先天性副腎低形成症 |
| 199 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 |
| 200 | 先天性ミオパチー |
| 201 | 先天性無痛無汗症 |
| 202 | 先天性葉酸吸収不全 |
| 203 | 前頭側頭葉変性症 |
| 204 | 早期ミオクローニー脳症 |
| 205 | 総動脈幹遺残症 |
| 206 | 総排泄腔遺残 |
| 207 | 総排泄腔外反症 |
| 208 | ソトス症候群 |
| (タ行) | |
| 209 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 |
| 210 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 |
| 211 | 大脳皮質基底核変性症 |
| 212 | 大理石骨病 |
| 213 | ダウン症候群 |
| 214 | 高安動脈炎 |
| 215 | 多系統萎縮症 |
| 216 | タナトフォリック骨異形成症 |
| 217 | 多発血管炎性肉芽腫症 |
| 218 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 |
| 219 | 多発性軟骨性外骨腫症 |
| 220 | 多発性嚢胞腎 |
| 221 | 多脾症候群 |
| 222 | タンジール病 |
| 223 | 単心室症 |
| 224 | 弾性線維性仮性黄色腫 |
| 225 | 短腸症候群 |
| 226 | 胆道閉鎖症 |
| 227 | 遅発性内リンパ水腫 |
| 228 | チャーン症候群 |
| 229 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 |
| 230 | 中毒性表皮壊死症 |
| 231 | 腸管神経節細胞腫少症 |
| 232 | TSH分泌亢進症 |
| 233 | TNF受容体関連週期性症候群 |
| 234 | 低ホスファターゼ症 |
| 235 | 天疱瘡 |
| 236 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 |
| 237 | 特発性拡張型心筋症 |
| 238 | 特発性間質性肺炎 |
| 239 | 特発性基底核石灰化症 |
| 240 | 特発性血小板減少性紫斑病 |
| 241 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) |
| 242 | 特発性後天性全身性無汗症 |
| 243 | 特発性大腿骨頭壊死症 |
| 244 | 特発性門脈圧亢進症 |
| 245 | 特発性両側性感音難聴 |
| 246 | 突発性難聴 |
| 247 | ドラベ症候群 |
| (ナ行) | |
| 248 | 中條・西村症候群 |
| 249 | 那須・ハコラ病 |
| 250 | 軟骨無形成症 |
| 251 | 難治類回部分発作重積型急性脳炎 |
| 252 | 22q11.2欠失症候群 |
| 253 | 乳幼児肝巨大血管腫 |
| 254 | 尿素サイクル異常症 |
| 255 | ヌーナン症候群 |
| 256 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症 |
| 257 | 脳腫黄色腫症 |
| 258 | 脳表ヘモジデリン沈着症 |
| 259 | 膿疱性乾癬 |
| 260 | 嚢胞性線維症 |
| (ハ行) | |
| 261 | パーキンソン病 |
| 262 | パージャー病 |
| 263 | 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症 |
| 264 | 肺動脈性肺高血圧症 |
| 265 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) |
| 266 | 肺胞低換気症候群 |
| 267 | パッド・キアリ症候群 |
| 268 | ハンチントン病 |
| 269 | 汎発性特発性骨増殖症 |
| 270 | PCDH19関連症候群 |

| 番号 | 疾病名 |
|------|----------------------------|
| 271 | 非ケトーシス型高グリシニン血症 |
| 272 | 肥厚性皮膚骨膜炎 |
| 273 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 |
| 274 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 |
| 275 | 肥大型心筋症 |
| 276 | 左肺動脈右肺動脈起始症 |
| 277 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 |
| 278 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 |
| 279 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 |
| 280 | 非典型性溶血性尿毒症症候群 |
| 281 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 |
| 282 | 皮膚筋炎/多発性筋炎 |
| 283 | びまん性汎細気管支炎 |
| 284 | 肥満低換気症候群 |
| 285 | 表皮水疱症 |
| 286 | ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型) |
| 287 | ファイファー症候群 |
| 288 | ファロー四徴症 |
| 289 | ファンconi貧血 |
| 290 | 封入体筋炎 |
| 291 | フェニルケトン尿症 |
| 292 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 |
| 293 | 副甲状腺機能低下症 |
| 294 | 副腎白質ジストロフィー |
| 295 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 |
| 296 | プラウ症候群 |
| 297 | ブラダー・ウィリ症候群 |
| 298 | プリオン病 |
| 299 | プロピオン酸血症 |
| 300 | PRL分泌亢進症(高プロラクチン血症) |
| 301 | 閉塞性細気管支炎 |
| 302 | β-ケトチオラーゼ欠損症 |
| 303 | ペーチェット病 |
| 304 | ペスレムミオパチー |
| 305 | ヘパリン起因性血小板減少症 |
| 306 | ヘモクロマトーシス |
| 307 | ペリー症候群 |
| 308 | ペルーシド角膜辺縁変性症 |
| 309 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) |
| 310 | 片側巨脳症 |
| 311 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 |
| 312 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 |
| 313 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 |
| 314 | ポルフィリン症 |
| (マ行) | |
| 315 | マリネスコ・シェーグレン症候群 |
| 316 | マルファン症候群 |
| 317 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー |
| 318 | 慢性血栓性肺高血圧症 |
| 319 | 慢性再発性多発性骨髄炎 |
| 320 | 慢性肺炎 |
| 321 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 |
| 322 | ミオクローニー欠神てんかん |
| 323 | ミオクローニー脱力発作を伴うてんかん |
| 324 | ミトコンドリア病 |
| 325 | 無虹彩症 |
| 326 | 無脾症候群 |
| 327 | 無βリポタンパク血症 |
| 328 | メーブルシロップ尿症 |
| 329 | メチルグルタコン酸尿症 |
| 330 | メチルマロン酸血症 |
| 331 | メドウズ症候群 |
| 332 | メンケス病 |
| 333 | 網膜色素変性症 |
| 334 | もやもや病 |
| 335 | モワット・ウィルソン症候群 |
| (ヤ行) | |
| 336 | 薬剤性過敏症症候群 |
| 337 | ヤング・シンプソン症候群 |
| 338 | 優性遺伝形式をとる遺伝性難聴 |
| 339 | 游走性焦点発作を伴う乳児てんかん |
| 340 | 4p欠失症候群 |
| (ラ行) | |
| 341 | ライソゾーム病 |
| 342 | ラスマッセン脳炎 |
| 343 | ランゲルハンス細胞組織球症 |
| 344 | ランドウ・クレファナー症候群 |
| 345 | リジン尿性蛋白不耐症 |
| 346 | 両側性小耳症・外耳道閉鎖症 |
| 347 | 両大血管右室起始症 |
| 348 | リンパ管腫症/コーハム病 |
| 349 | リンパ管筋腫症 |
| 350 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) |
| 351 | ルビンジョウタン・テイビ症候群 |
| 352 | レーベル遺伝性視神経症 |
| 353 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 |
| 354 | 劣性遺伝形式をとる遺伝性難聴 |
| 355 | レット症候群 |
| 356 | レノックス・ガストー症候群 |
| 357 | ロスマンド・トムソン症候群 |
| 358 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 |